

## 国際財務報告基準 (IFRS)

# 米国企業の導入実施計画

### エグゼクティブ サマリー

2008年11月14日、米国証券取引委員会 (SEC) は、「米国発行体による国際財務報告基準適用に関するロードマップ (案)」（以下“ロードマップ (案)”とする) を公表しパブリックコメントに付した。この文書では、米国の一般に公正妥当と認められた会計原則 (米国 GAAP) から国際財務報告基準 (IFRS) への段階的な移行を提示しており、大規模早期提出会社は、2014年に適用開始を予定する。複数年にわたるこの計画には、マイルストーンが設定されており、達成されれば、米国発行体が SEC に財務諸表を提出する際に IFRS を使用することとなる。そのマイルストーンのひとつとして、2011年に IRS が、投資家に利益をもたらす、公益に資するかという観点から IFRS を強制採用するか否かの決定を行うことがある。ロードマップ (案) には、限定された企業に対する早期適用についても定めている。

ロードマップ (案) の公表を見据え、2008年9月4日に米国に本社を置く上場企業 30 社のプロジェクトリーダーが集まり、IFRS 導入に向けての各社の対応について意見交換を行った。

このレポートは、最終的なロードマップの公表に先立ち、米国企業の IFRS 導入準備のための取組みについてまとめたものである。

### 導入開始の手順

- 米国以外の国で既に IFRS を導入した企業が直面した課題について学ぶとともに、プロジェクト管理や予算措置、必要なリソースの見積り、適切なコミュニケーションのための研修プラン等を含め、米国での IFRS 導入戦略について経営幹部の支援を得る。
- 海外子会社の中で、すでに IFRS を導入している企業、また法的要求により IFRS を導入中である子会社の棚卸を実施する。そしてグループ内の会計方針の選択に不一致や差異が存在しないか確かめるとともに、グループ内で進行中の IFRS 導入に向けた各種取組みについて一貫性が保たれているかを一元的に管理、調整できる体制を構築するべきである。
- IFRS 第 1 号、「*IFRS の初度適用*」に記載されている要求事項について検討する。
- IFRS 導入戦略への支援を得るため、経営陣や取締役会と情報の共有を図る。
- 企業により IFRS への会計基準変更がもたらす影響には差があると予想されるため、以下の手順により自社への影響度分析を行う。
  - 基準や規制に基づき、IFRS 移行スケジュール、各種提出物や締切期限などについて初期調査を行う。
  - USGAAP と IFRS による類似点や相違点を具体的に把握するために詳細なギャップ分析を行う。
  - 財務報告書、業務プロセス及び IT システムへの影響や重要度を考慮しながら、USGAAP と IFRS との差異についての計量化を図る。また、それらの差異について、高 (High)、中 (Medium)、低 (low)、に分類する。新規取引の会計処理については、USGAAP と IFRS 両方の基準による分析を並行して実施しておくことにより、IFRS を導入した時点で必要となる過去 3 年分の遡及修正を行う際に役立つと考えられる。現時点の解決策が将来も同じであるとは限らないため、詳細なポジションペーパーを作成しておくとともに、継続的に監査人に伝えておくことも重要である。
- IFRS において、会計方針策定上いくつかの選択肢がある場合、意思決定の支援ツールとなる適切なセンシティブティ分析を実施する。また、ガバナンス体制について考慮しながらプロジェクトチームを編成する。本部のプロジェクト・マネジメント・チームがトップダウンアプローチにより IFRS プロジェクトを統括管理する方法が一般的である。経理部門以外の影響を受ける部門についてもプロジェクトに参加させる必要がある。意見交換を行なった企業の中には、IFRS の概要と導入プランについて、すでに監査委員会に状況報告を実施している会社や仮導入計画を提出済みの会社もあった。

- 具体的な IFRS 導入プランの策定：
  - 中心的なプロジェクトチームメンバーには必須となる技術的な研修プログラムを構築し、後に展開することにより、会社の IFRS の知識ベースを拡大していく。
  - グローバル会計方針マニュアルを準備する。チェックリストやテンプレートの標準化は、グループ内の整合性を図るのに有効である。
  - IT システムへの変更について評価する。IT 部門に変更が必要となる時期を伝えるとともに IT 部門がシステム変更のための課題を明らかにできるように早期にプロジェクトに参加させる。また、併行稼働するシステムについての費用と便益についても検討する。
  - 各種報告書やその他の提出物について確認する。
  - 内部統制環境や認証プロセスとリンクさせる。
  - すべてのステークホルダーに対するコミュニケーション戦略を開始する。
- IFRS 適用コストについて述べるのは時期尚早であるが、ロードマップ（案）の中で SEC は、導入コストが上場企業の売上高の 0.125% から 0.13% 程度だと予想している。
- 企業にとり IFRS プロジェクトは、グローバルな整合性を図り効率性を高める機会となることに加え、社内の専門的能力の中核を構築することを可能にする。

以上

#### 原文報告書

タイトル： International Financial Reporting Standards:  
A Project Plan for U.S. Companies  
発行： Financial Executive Research Foundation, Inc. (FERF)  
主著者： Cheryl de Mesa Graziano, Vice President, Research and Operations, FERF  
スポンサー： Resources Global Professional

※ 本資料の日本語訳は、原文報告書の内、エグゼクティブ・サマリー・セクションのみを対象としております。また、本資料はリソース・グローバル・プロフェッショナル・ジャパン株式会社が参考訳として作成したものであり、その正確性・完全性を保証するものではありません。したがって、本資料に起因して生ずるいかなる業務上の責を負うものではありません。

© 2009 Resources Global Professionals All rights reserved.